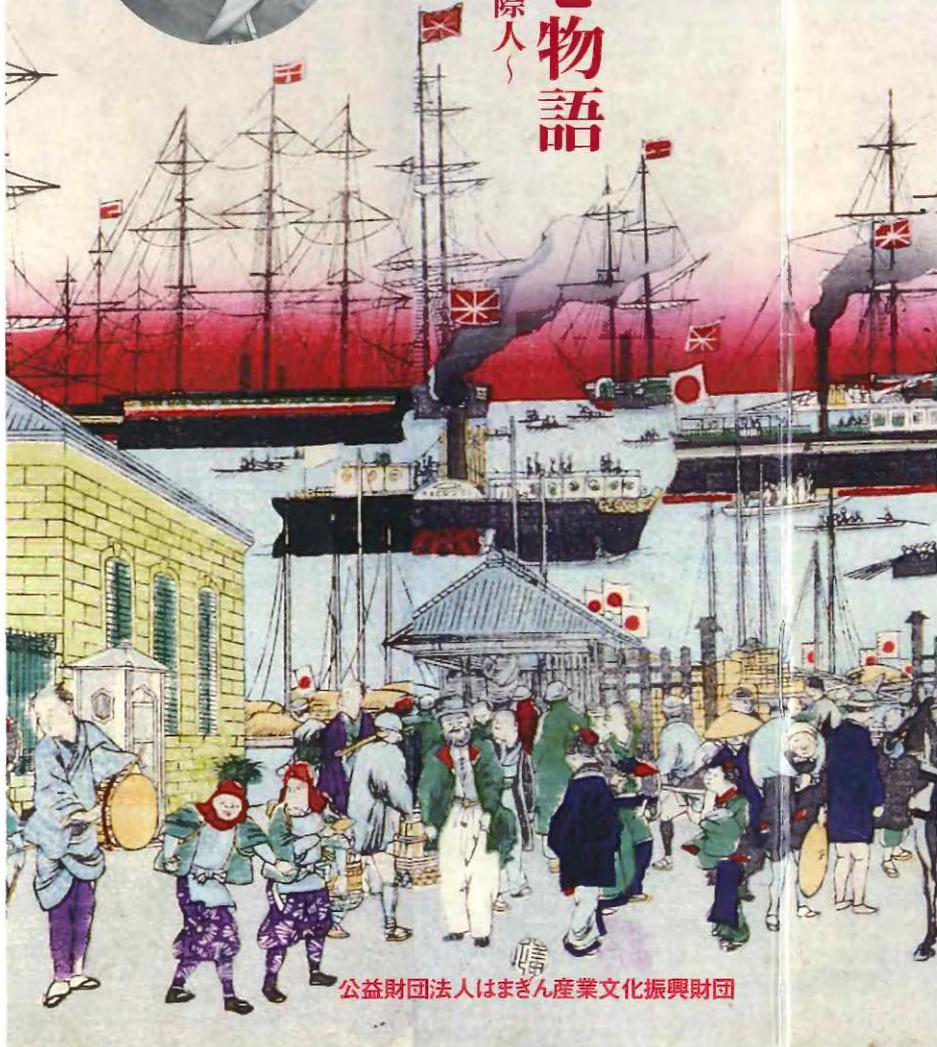


マイウェイ

No.88
2013

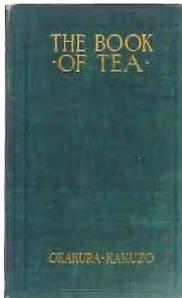


◎ 生誕百五十年記念
岡倉天心物語
〜 横浜が生んだ国際人〜
監修・文 新井恵美子
写真 桜井ただひさ



公益財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成25年9月発行 ● 発行人 寺澤辰磨 ● 編集人 富安良和 ● 発行 公益財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220 8601 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎ 045 225 2171 直通 株式会社 大日本印刷株式会社



生誕百五十年記念 横浜が生んだ国際人

岡倉天心物語

監修・文 新井恵美子

明治期、近代日本美術の発展に寄与した岡倉天心は、西洋、日本、アジアをグローバルな視点から見ていた国際人でした。生誕百五十年の今年、天心の功績を振り返ります。

明治時代、世界に日本文化を発信した岡倉天心

表紙／歌川国輝（2代）
《横浜仏国役館之全図》
部分 明治5年 横浜開港資料館蔵。岡倉天心 写真提供：茨城県天心記念五浦美術館。
裏表紙／『茶の本』明治39年 フォックス・ダフィールド社刊。茨城県天心記念五浦美術館蔵。



上／文久3年夏ころの横浜市街。パーカーの撮影とされる写真（部分）。横浜開港資料館蔵。左ページ右は岡倉天心の生地「石川屋」跡。現在は横浜市開港記念会館が建つ。左は「岡倉天心生誕之地」碑。揮毫は安田靉彦。



ボストン美術館勤務時代の天心。写真提供：茨城県天心記念五浦美術館。



開港直後の横浜に生まれて

幼名角蔵、のち覚三は、今から百五十年前、一八六三年二月十四日（旧暦文久二年十二月二十六日）に横浜の本町五丁目（現一丁目）で生まれました。横浜に港が開かれて四年目のことでした。

日本文化への開眼

天心の父、覚右衛門は福井藩の藩士だったのですが、藩主命令によって開港間もない横浜に派遣され、この地に石川屋を開き、福井の名産、羽二重を外国人相手に売り出していました。長い鎖国の果てに開国をした日本には上質な生糸があるとの噂に、押し寄せる海外の貿易商を相手に、横浜の商人たちは大活躍をしていたのです。

日常的に英語が飛び交う環境で天心は成長し、生きた海外の風を身に受け取ります。天心はこの時期、英語習得と共に漢学の素養も身につけます。後に世界に飛び出して、日本の文化やアジアの誇りを伝える役割を担う天心の素地が、ここにあったのです。

やがて日本は明治の世となり、天心一家も東京に出て行きます。時代は文明開化一色となり、西欧に追いつけ追い越せと早急な近代化が始まっていました。天心は東京大学第一期生として日本の将来を期待されることとなります。お雇い外国人による英語の授業も天心は難なくこなします。ここでフェノロサとの出会いがあり、日本美術の素晴らしさに気づくのです。目先の近代化にあくせくするのはなく、逆に日本の優れた文化を世界に発信していくべきではないのかと天心は考えました。日本、中国、インドなどの文化を研究した上で「アジアは一つ」



天心の生家、石川屋を描いた「本町五丁目石川生糸店之図」
(五雲亭貞秀『横浜開港見聞誌』より) 国立国会図書館蔵。

海を見ていた少年

母への憧憬

天心の母このは、福井三国（現福井県坂井市三国町）の人でした。横浜に出て石川屋にやって来たのは、天心の父覚右衛門の前妻が亡くなって、四人の娘の世話をする者が必要になったからです。このは子供たちの世話ばかりではなく、石川屋の商売の手伝いまでこなしました。このが来てから、店は繁盛するようになります。すっかりこのを気に入った覚右衛門は、彼女を二度目の妻とし、このは天心の母となります。天心は次男で、二

歳上の兄港一郎がいました。兄は頭脳は優秀でしたが、生まれつきの病弱で早く亡くなってしまいます。

このは大忙しでした。先妻の四人の子の世話、病弱な長男の面倒、しかも店の手伝いもあります。そんな大忙しの最中に天心は生まれます。そこで天心の世話役として、つねという婆やが福井からやって来ます。婆やは優秀な人で、幼い天心に福井の風土と文化を語って聞かせました。そんな婆やが、天心は大好きでした。しかし一方で、「母様に思いつきり抱かれない」と子供らしく思っていたの



右／平櫛田中『岡倉天心像』昭和6年 東京藝術大学蔵。
上／天心の記念碑「亜細亜ハ一な里」。五浦（北茨城市）に設置。写真提供：茨城大学。



と高らかに言いました。

真の国際人として

やがて、天心は文化芸術こそ日本の誇りとするべきものと言い、上野に東京美術学校（現東京藝術大学）を創ります。また、廃仏毀釈によって捨てられ、放置されていた古建物や仏像の保護にも尽力します。その上で天心は国宝制度を確立させます。

『東洋の理想』明治36年
ジョン・マレー社刊。茨城
県天心記念五浦美術館蔵。



アメリカのボストン美術館の東洋部門の整備をしたのも天心です。天心が生涯に著した四冊の著書『東洋の理想』『日本の覚醒』『茶の本』『東洋の覚醒』（この著書のみ没後出版）は、全て英文で書いています。それらの本は海外の人々に大変もてはやされていたのですが、日本人はずっと後まで本の存在すら知らなかったのです。

百年も前にこんなにもグローバルな生き方をした日本人がいて、世界を股にかけて活躍をしていたこと、そしてその人を生んだのがこの横浜であったことを、私たちは感動と共に認識するのです。私たちは今こそ岡倉天心の生涯を学ぶべきではないでしょうか。



平成4年の天心顕彰祭で赤倉から福井市に贈られた天心草。写真提供：北村市朗氏。

天心が非常に植物好きであったことを存じですか。まだ日本人が芝生というものを知らないころ、天心はアメリカからローングラスと呼ばれる草の種を持ち帰り、五浦の自宅の前庭にまきました。今でも五浦の天心旧宅には芝生が植えられています。また、天

心草はアメリカ生まれのノコギリ草に似た花です。これは天心が明治四十三年にボストンから持ち帰り、赤倉の家に植えたものです。春から夏にかけて天心草はピンク色の可憐な花を咲かせます。異国から持ち帰った主はとつくにいなくなったのに花開くのです。



上/長延寺本堂。当時は神奈川宿（現在の神奈川区新町）にあったが、後年、緑区三保町に移転。右/この墓は長延寺内に残る。

延寺に住み込んで漢学を学び始めます。住職の玄導和尚は浄土真宗西本願寺派内でも有数の漢学者でした。人格も高潔であったこの僧から、天心はたくさんものを学んだのです。天心が親元を離れて長延寺に入る決意をしたことの一つに、この寺には亡き母が埋葬されていたことがあります。

寺での天心は日夜漢学に熱中しました。が、一方英語塾も続けました。世は明治となり、文明開化華々しく横浜にも汽車が通ります。バラ塾は高島学校の一部となるのですが、天心は漢学と英語を併せて学び続けます。後の天心を支え、発展させるものがこの二つの教養だったのです。「いつか海の方へ行くのだ」。少年は横浜の海の方へきつと見つめて、つぶやいていました。



右/父寛右衛門と母この、兄港一郎。写真提供：茨城県天心記念五浦美術館。上/高島学校（伊勢山下の第一校舎）。明治4年、実業家高島嘉右衛門が設立した学校。正式名は藍謝堂。横浜開港資料館蔵。



寂しかった天心は、外国のお客さんで賑わう石川屋の店先に立っていました。そこで交わされる商談は、中国人の通訳を間にして行われていました。天心にはそれが面白くてたまらないのです。そのうち、この小さな男の子はいつの間にか英語を理解するようになってしまったのです。天性の才能だったのか、それとも横浜という土地の環境だったのか、天心は誰にも教わらないのに英語が分かるようになったのです。喜んだ父親は早速、ジェームス・バラ塾にこの子を入学させました。宣教師のバラ先生は天心の英語力

に驚いたそうです。そんな天心が生き生きと英語を学んでいる日々のことです。ある日、塾から戻った天心は母の急死に出合うのです。母は弟由三郎を生み、続いて妹蝶子を出産して、その産褥熱によって命を落としてしまったのです。七歳で母親と別れなければならなかった天心は、その悲しみを生涯捨て去ることが出来なかったのです。その上、父がすぐに再婚したことが天心には許せないでした。一方、父は天心が英語は優れているが、日本語が遅れていることに気付いていました。

いつか海の方へ

そんなこんなで、天心は神奈川宿の長

東京での大学生生活

天心の父（覚右衛門）が営業した石川屋は生糸貿易の店として繁栄し続けていきましたが、廃藩置県により福井藩がなくなるため、藩士であった覚右衛門も十三年続いた店を閉めなければなりません。一家は東京日本橋筋麩町に出て、「岡倉旅館」を営むことになりました。この時、天心も長延寺から呼び寄せられ家族と一緒に上京します。

天心は難関を突破して東京開成学校に入学します。間もなく、この学校が東京

医学校と合併されて日本で最初の総合大学、東京大学になります。天心は東京大学の一期生となるのです。明治十年（一八七七）、天心十四歳の春のことでした。この秋には西南戦争も終結し、明治政府は一日も早く教育問題の整備を行わなければならなかったのです。お雇い外国人教師の東大での授業はすべて英語で行われ、天下の秀才たちもこれにはあたふたとしたのですが、天心だけは平然としたものです。子供の時から英語を子守歌のように聞いていたのですから、原語の授業などたやすいことでした。



歌川国輝（2代）《東京第一大学区開成学校開業式之図》
国立国会図書館蔵。



アーネストフェノロサ（1853-1908）
明治11年、東大の教師として来日。西洋文化・美術一辺倒の明治期の日本で、日本美術の価値を見出し、広く紹介した。



右/東大卒業後、文部省で勤務を始めた、明治13年ごろの天心。写真提供：茨城県天心記念五浦美術館。上/天心による救世観音のスケッチ。明治19年「奈良古社寺調査手録」より。日本美術院蔵。



秘仏救世観音を見出す

生じた余暇を見つけては、天心は江戸末期の南画など日本美術研究に費やしていました。そんな折、哲学教授フェノロサ先生から日本美術品の蒐集のため、通訳を依頼されます。当時、廃仏毀釈の波は日本全土に押し寄せ、国宝級の仏像などの美術品が道端で売られているような時代だったのです。フェノロサと天心は連れだってあちこち美術品研究の旅をします。

奈良法隆寺夢殿では救世観音を見つけ出します。秘仏として寺の隅に隠され、放置されていた救世観音を見出したのです。この救世観音の出現が文化財保護の

シャーロック・ホームズ



シドニー・パジェットによるホームズのイラスト。

あたらしもの好きの天心は「アソシエーション式蹴球」というものをイギリスから持ち帰りました。サッカーです。日本でも早い時期だったでしょう。また、シャーロック・ホームズは長男一雄が英語の教材に使っているのを見て、家族に読んで聞かせるようになって

たのだそうです。天心の英語力は原語のホームズを目で読みながら、日本語にして話せるものでした。あんまり面白くて、「もつともつ」と妻子にねだられると晩酌の追加と引き換えにしたのだそうです。一家団らんのおもしろい空気まで伝わってくるようです。



狩野芳崖《悲母観音》明治21年 東京藝術大学蔵。芳崖はフェノロサとの出会いにより伝統的日本画に西洋画の空間表現を取り入れるなど画期的な手法を創り出した。東京美術学校設立に尽力するも開校直前に逝去。

る様を毎日ながめて、広い世界に憧れていた天心が海を渡って行くのです。この時、天心はアメリカからヨーロッパに渡り、世界の芸術と芸術学校や芸術家養成所の現状を視察しました。「欧米の美術も恐れるに足らず」と胸を張って帰国します。

明治二十二年、東京美術学校はついに開校します。上野の地を選んだのも天心



法隆寺夢殿救世観音像。明治17年、それまで秘仏として布覆われていた観音像を初めて開帳した。写真提供…便利屋。

ための立法のきっかけとなったのです。天心は卒論も美術論を書き、自身の将来を日本文化の整備と保護の方向に定めて行きます。このころ、放置されていたのは美術品ばかりではなかったのです。これまで藩王によって保護されていた芸術家たちが、生活の方便を失って路頭に迷っていました。天心とフェノロサはこの優れた美術家たちを救うべく、芸術学校の創設を急ぐのです。

東京美術学校設立

明治十九年（一八八六）、二十三歳の天心は一時帰国するフェノロサ一家と共に、横浜港からアメリカ行きの客船に乗り込みます。少年時代、外国船の寄せ来

真の国際人とは

明治三十七年（一九〇四）、天心はアメリカ、ボストン美術館所蔵の東洋美術の整備を任せられ、勤務することになります。このころ、天心はガードナー夫人のような裕福なアメリカ女性たちの支援を受けるようになっていました。

この年、セントルイスで万国博覧会が開催されます。天心も出席します。日本からも学者たちが招待されていました。が、野に下った天心に番はありませんでした。ところがルーブル美術館の関係者が欠席をしたため、急遽、天心が美術の話をするようになったのです。その日の天



右／橋本雅邦《白雲紅樹》明治23年狩野芳崖とともに後進の指導にあたった。上／菱田春草《寡婦と孤児》明治28年卒業制作。教授会での評価が分かれたが、天心の裁決で最高点となった。ともに東京藝術大学蔵。



東京美術学校第1回卒業写真。明治26年7月。前列左から6番目が橋本雅邦、7番目が岡倉天心。写真提供：茨城県天心記念五浦美術館。

心のいでたちは紋付袴、その天心が発する英語はあまりにも流暢で楽しくて、聴衆の心を鷲掴みにするものでした。居並ぶ日本人ゲストたちは声も出なかったそうです。しかもフランスとドイツの新聞社が一斉に天心に近づき、「新聞に掲載させて欲しい」との依頼が殺到しました。

日本側はそんな天心の評判を快く思わなかったこともあって、天心がレセプションに出席することを許可しませんでした。その理由は燕尾服を着ていないからというものでした。「日本の国の正装は紋付袴ではないか。自国の衣装を誇りたくないなんて」。天心は嘆くのでした。



明治44年、ハーバード大学よりマスター・オブ・アーツの学位を授与されたときの新聞の切り抜き。中央の袴姿が天心。茨城県天心記念五浦美術館蔵。

でした。天心が校長になるのは翌年のことです。学校にはフェノロサや天心が見出した橋本雅邦らを教授に迎え、横山大観や下村観山、菱田春草らが生徒として入って来ます。まさに日本美術のルネッサンスの時を迎えているのでした。

「西欧文化に追随するだけでなく、日本古来の芸術を育てていくことがどれほど大切か」と、天心は高らかにその理想を掲げるのでした。

このころ、天心は「真に優れた芸術は古くならない」ということに気付いていました。出来たばかりの美術学校で、永遠に生き残れる本物の美術を生み出したのだと、若き天心は心の底から願うのでした。そして走り出しました。



東京美術学校校長時代の天心。奈良朝の役人服を基にした美術学校の制服を着用し、愛馬若草号で学校に通った。写真提供・茨城県天心記念五浦美術館。

校長の座を罷免

二十七歳で東京美術学校校長になった天心に恐いものはなかったのです。自信いっぱい学校運営をし、日本美術の新興のために動き回ります。学生時代に結婚した基子との間には長男一雄、長女高麗子がいて、幸福な家庭を営んでいました。そんな天心の絶頂期にいきなり、暗雲が立ちこめます。美術学校を追われることになったのです。明治三十一年（一八九八）、三十五歳の天心は校長の座を罷免ひめんされます。いくつもの理由が取りざ

たされるのですが、何といつても狷介けんけい孤高ここうと言われる天心のやり方が上層部の不満を生んだのでしょうか。怪文書が回り、天心の不倫騒動までも取りざたされることになりました。天心の理想とする美術界の改革も理解されることはありませんでした。

驚いたことに、天心が美術学校を追われる日、橋本雅邦ら三十四名の教授陣が天心と共に辞職を申し出たのです。学校側は大慌てです。主要教授らに辞められずと学校運営は成り立たないのです。しかし、学校側の引き留め策にもかかわらず

ず、十七名は最後まで天心に従おうとします。天心も剛気なものです。「美術学校を追われるのではない。日本美術院という、もつと高度な美術団体を作るのだ」と言いつつ、野に下るのでした。

日本美術院発足

しかし、この後の日本美術院は多難で、大観、観山ら十七名は極貧の暮らしをする日々もあつたのです。何と云っても非常に強い明治政府と対立した訳ですから大変でした。絶望した天心はインドに旅立ちます。インド、中国を旅した結果、天心は日本の美術の根幹がアジアにあることを確信します。『東洋の理想』を著した時、その書き出しは「アジアは

右／日本美術院南館。明治31年10月に東京谷中で落成式が行われた。下／開院当日の日本美術院正員。後列右端が岡倉天心、左端は横山大観。写真提供はともに日本美術院。



天心は3回の中国旅行をしている。写真は1回目の明治26年、河南省開封近くの旅亭で。日清情勢を鑑み辮髪姿で旅を続けた。写真提供：茨城県天心記念五浦美術館。

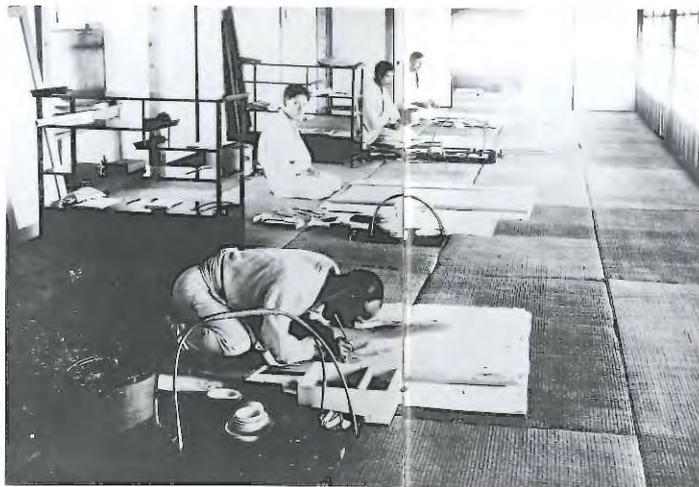
フェノロサの墓



三井寺法明院のフェノロサの墓。写真提供：大津市環境部環境政策課。

お雇い外国人教師としてアメリカからやって来たフェノロサの墓が滋賀県大津法明院にあることはあまり知られていないと思います。天心と共に日本美術の整備や保存に尽力し、日本を愛してやまなかつたフェノロサです。そのフェノロサは明治四十一年ロンドンで

客死します。一旦は英国の教会に埋葬されるのですが、「自分の骨は日本に埋めて欲しい」という遺言が出たため、お骨は掘り返されて日本に送られ、大津に埋葬されています。日本の仏教に帰依し、法明院の住職に戒名までつけて貰っていたのです。



五浦での制作風景。手前から木村武山、菱田春草、横山大観、下村観山。写真提供：茨城県天心記念五浦美術館。



ラビンドラナート・タゴール (1861-1941) アジア初のノーベル文学賞を受賞した詩人。写真提供：茨城大学。



明治38年天心は五浦に六角堂を建設。「観瀾亭」と呼んで思案にふけた。東日本大震災の津波により流出したが、平成24年4月再建。写真提供：茨城大学。

天心はもはや東京や日本国家を相手にしようとはしなかったのです。

横浜で花開いた理想

そのころ、日本美術院の芸術家たちの支援を横浜時代の知人、原三溪に依頼します。三溪は原家の二代目になります。三溪は善三郎の築いた事業を二倍にも三倍にもした人物です。善三郎の孫娘屋

一つ)だったのです。ロンドンで発売されたこの本はベストセラーとなり、天心の名を高めました。『東洋の覚醒』も続いて着手します。インドでは詩人タゴールとも知り合い、互いに理解しあうようになります。

その後、天心はニューヨークで『日本の覚醒』や『茶の本』を出版して、ここでも評判となります。また、ボストン美術館の東洋美術部門の担当となるのが天心四十一歳のことです。この後、天心は一年を二つに割って、日本とボストンの二つの世界に生きて行きます。しかも日本での暮らしも、もう東京ではありませんでした。理想の地、五浦(現北茨城市五浦)に日本美術院と自宅を建てます。

寿子と結婚することによって、三溪は原家の莫大な身代を受け継ぎ、近代化させることに成功します。

三溪は元々、審美眼の優れた人であったこともあり、横浜本牧の庭園に古建物を移築して名園三溪園を完成させます。明治三十九年(一九〇六)、三溪はこの庭を横浜の人々に開放します。「確かにこの庭は私のものだが、自然や風景は市

転居癖



赤倉の別荘跡に建つ六角堂。写真提供：妙高市観光協会。

横浜で生まれた天心は明治六年（一八七三）、十歳で東京に出て行きます。十六歳で学生結婚した天心は、根岸御行の松近く（現台東区根岸）を皮切りに年一回の割で転居を繰り返します。八年間に八回の転居をした末、中根岸に理想に適った自分の家を建てていま

す。それにしてもいくら転居好きと言っても多すぎます。家族は大変だったでしょう。このように転居が可能になったのはこの時代、江戸の大名屋敷が空き家になっていて、安価に入居出来たこともありです。やがて天心は五浦と赤倉に安息の地をみつけます。



横山大観《煙寺晚鐘》大正4年。三溪は数多くの大観の作品を購入した。三溪園蔵。

新井恵美子（あらい・えみこ）●ノンフィクション作家。昭和14年東京に生まれ、小田原で育つ。平成8年『モンテナルバの夜明け』で潮賞ノンフィクション部門賞受賞。著書に「哀しい歌たち」「岡倉天心物語」「平清盛」他多数。

大正二年（一九一三）、五十歳の生涯を天心は赤倉高原のもう一つの自宅で閉じます。天心を敬愛する美術院生たちが駆けつけ、先生の死に涙して秋の草花を抱えきれないほど捧げたという事です。



上/下村観山《大原御幸》部分 明治41年。原三溪はこの絵を見て観山の力量に感服し購入した。東京国立近代美術館蔵。右/原三溪。(1868-1939) 下/三溪園。写真提供はともに三溪園。



民のものだ」と言つて庭園の門戸を広く開き、市民を歓迎したのでした。これは大変な英断で誰にでも出来ることではないのです。三溪はそれほどに横浜と横浜の人々を愛したのです。

また、三溪は古美術を愛好し、蒐集することを生き甲斐としておりましたが、天心と出会ったことから、少し考えが変わります。きっかけとなったのは、先代善三郎の死去に伴う顕彰のための立像

造りを天心に依頼したことでした。明治三十二年（一八九九）「横浜陶画協会春季展」が開催された際、久しぶりに横浜に来た天心は、父親寛右衛門と親しかった原家の婿と会い、意気投合します。

この日から三溪は日本美術院の芸術家たちの父として経済的な支援、精神的な応援を始めます。下村観山、横山大観、菱田春草、西郷孤月、平櫛田中ら芸術家たちの身が立つようにしたのは原三溪だったのです。天心のかかげた理想は、横浜の地で花開くことになったのです。

西欧に追随するだけではなく、日本独自の文化に着目し、東洋、アジアの誇りに目覚めることを叫びつつ、生涯をあわただしく駆け抜けた天心でした。

明治39年(1906) 43歳 4月、奈良京都でボストン美術館のための美術品蒐集を行う。このころ赤倉に土地を購入、8月に山荘が完成。5月、『The Book of Tea(茶の本)』をニューヨークで出版。6月、腎臓病悪化で入院。10月、ボストン美術館美術品蒐集のため清国へ。11月、日本美術院の作家たちが五浦へ移住。

明治40年(1907) 44歳 8月、文部省美術展覧会(文展)の審査委員になる。11月、3回目のボストン勤務のため渡米。

明治41年(1908) 45歳 1月、橋本雅邦逝去。4月、ヨーロッパ、シベリア、北京経由で帰国。ヨーロッパの美術館視察。9月、フェノロサがロンドンで客死。

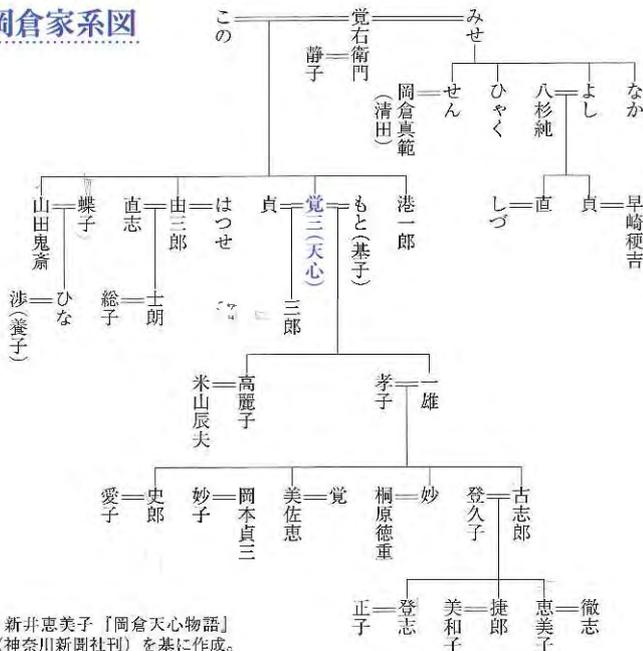
明治43年(1910) 47歳 4月、東京帝国大学にて「泰東巧藝史」の講義を始める。5月、ボストン美術館中国日本部部长に就任。9月、4回目のボストン勤務のため渡米。

明治44年(1911) 48歳 1月、ボストンからヨーロッパ視察の旅に出る。6月、ハーバード大学よりマスター・オブ・アーツの学位を授与。9月、菱田春草没。11月、原三溪に若い美術家たちへの援助を依頼。腎臓病が再発して東京で療養。

明治45年(1912) 49歳 大正元年 5月、ボストン美術館美術品蒐集のため北京へ。8月インド、ヨーロッパ経由で5回目のボストン勤務へ向かう。9月、カルカッタのタゴール家でプリヤンヴァダ夫人に会う。2月、オペラ台本『白狐』脱稿。ボストンを訪問したタゴールにプリヤンヴァダ夫人へ贈る台本を託す。体調悪化のため予定を早めて帰国。4月、五浦で静養。8月、古社寺保存会に出席し、法隆寺金堂壁画保存を提案。9月2日、赤倉の山荘で逝去。谷中にて葬儀、柴井墓地に埋葬、五浦に分骨された。10月、ボストンで追悼会、11月、東京美術学校で追悼法要。

大正 2年(1913) 50歳

岡倉家系図



*新井恵美子「岡倉天心物語」(神奈川新聞社刊)を基に作成。

岡倉天心 年譜

文久 2年(1862) 0歳 旧暦12月26日(西暦1863年2月14日)、横浜本町5丁目(現1丁目)に生まれる。次男。父は福井藩士岡倉覚右衛門、母は福井三国出身のこの。幼名角藏、のち覚三と改名。

明治元年(1868) 5歳 2月、弟由三郎生まれる。

明治 2年(1869) 6歳 居留地のジューズ・ソラの英語塾で学び始める。

明治 3年(1870) 7歳 4月、妹蝶子生まれる。母このは出産時の産褥熱で急逝。

明治 4年(1871) 8歳 父覚右衛門、大野静子と再婚。覚三は神奈川宿の長延寺に住み込む。

明治 6年(1873) 10歳 一家は日本橋蛸薬町に移り、旅館業を営む。東京外国語学校に入学。

明治 8年(1875) 12歳 3月、兄港一郎没。9月、東京開成学校に入学。明治10年、東京開成学校と東京医学校が合併して東京大学に。

明治11年(1878) 15歳 アーネスト・フェノロサに哲学を学ぶ。この後、フェノロサの通訳として美術品蒐集を助ける。

明治12年(1879) 16歳 大岡基子と結婚。

明治13年(1880) 17歳 7月、東京大学卒業。夏、フェノロサとともに、京都・奈良の古社寺調査に赴く。10月、文部省音楽取調掛勤務。

明治14年(1881) 18歳 3月、長男一雄誕生。

明治17年(1884) 21歳 2月、フェノロサらと鑑画会設立。3月、長女高麗子誕生。6月、法隆寺夢殿の秘仏救世観音像を開帳。

明治18年(1885) 22歳 12月、フェノロサ、狩野芳崖とともに美術学校設立準備のため図画取調掛の委員になる。

明治19年(1886) 23歳 10月、アメリカ経由で欧州視察の旅に出る。

明治22年(1889) 26歳 2月、東京美術学校開校。5月、帝国博物館理事兼美術部長に就任。10月、美術誌「國華」を創刊。

明治23年(1890) 27歳 10月、東京美術学校長に就任。

明治26年(1893) 30歳 7月、東京美術学校第一回卒業式。横山大観、六角紫水ら卒業。弟子の早崎親吉を伴い、清国(中国)美術調査に旅立つ。

明治29年(1896) 33歳 7月、父覚右衛門逝去。

明治31年(1898) 35歳 3月、東京美術学校長非職を命じられる。橋本雅邦以下17名退職。7月、日本美術院設立趣意書の発表。

明治32年(1899) 36歳 このころより原三溪との交際が始まる。

明治33年(1900) 37歳 4月、第8回日本絵画協会共進会に出品した大観、観山、春草らの作品が臓腑体と揶揄される。

明治34年(1901) 38歳 8月、自宅にてマクロード女史らに日本美術史の講義を始める。この内容が『The Ideals of the East(東洋の理想)』となり明治36年、ロンドンで出版。11月、インドへ美術調査に旅立つ。

明治35年(1902) 39歳 宗教家ヴィヴェカーナンダを訪問。また、インドではタゴール家に滞在し、交流を深める。

明治36年(1903) 40歳 1月、大観、春草をインドに派遣。5月、北茨城の五浦海岸に土地、家屋を購入。

明治37年(1904) 41歳 2月、大観、春草、紫水を伴いアメリカへ。3月、ボストン美術館所蔵の東洋美術品の整理を開始。ガードナー夫人と知り合う。9月、セントルイス万博で「絵画における近代の問題」と題し講演。11月、『The Awakening of Japan(日本の覚醒)』をニューヨークで出版。

明治38年(1905) 42歳 6月、五浦に六角堂を建てる。10月、2回目のボストン勤務のため渡米。

「2013 かながわ民俗芸能祭」のご案内

「2013 かながわ民俗芸能祭」(無料)を次の通り開催いたします。人々の絆や地域のつながりによって育まれ、受け継がれてきた郷土かながわの民俗芸能をご鑑賞ください。



相模人形芝居／相模人形芝居下中座

- 会場 横浜銀行本店ビル1階「はまぎんホール ヴィアマール」
- 募集人員 350名
申込多数の場合には、抽選となりますので、予めご了承ください。
- 開催日 12月1日(日)
- 時間 開演午後1時(午後0時30分開場 午後4時15分終演予定)
- 募集期限 11月1日(金)(当日消印有効)
- 出演

芸能	所在地	出演団体
チャッキラコ	三浦市	ちゃっきらこ保存会
福田神社獅子舞	大和市	福田神社獅子舞保存会
平戸古民謡	横浜市	平戸古民謡保存会
内山剣舞踊り	南足柄市	内山剣舞おどり保存会
相模人形芝居	小田原市	相模人形芝居下中座

- 主催 神奈川県民俗芸能保存協会
- 共催 神奈川県、公益財団法人はまぎん産業文化振興財団
- 協賛 横浜銀行

●申込方法 往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号・参加人数(1名または2名)・開催日・返信用宛先を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 「はまぎん財団民俗芸能祭係」までお申し込みください。申込多数の場合には、抽選となりますので、予めご了承ください。

※未就学児の入場はご遠慮ください。

はがきに記載された個人情報、は催事のお申し込みのみに使用し、厳正にお取り扱いします。

- お問い合わせ 公益財団法人はまぎん産業文化振興財団事務局(横浜銀行本店ビル13階内 電話045-225-2171 平日9時~17時)
 - 交通アクセス JR線・横浜市営地下鉄線 桜木町駅下車、動く歩道利用徒歩5分、みなとみらい線みなとみらい駅下車徒歩7分
- ※駐車場のご用意がございませんので、公共交通機関等をご利用ください。

編集後記

近代日本の美術の発展に大きな功績を残すとともに、日本の文化を世界に紹介するなど国際舞台で活躍した岡倉天心。今年は、開港間もない横浜で生まれて百五十年の記念すべき年に当たります。

特集号の本号では、岡倉天心の人物像とその多大な功績とともに、国際人として活躍する礎となった幼少期の体験や原三溪を紹介するの芸術家の育成など、横浜との絆をご紹介します。

本号を通して、改めて、横浜が生んだ国際は、岡倉天心の足跡を皆さまにお伝えできれば幸いです。

最後になりましたが、ご多忙の中、執筆・監修をお引き受けいただきました新井恵美子氏をはじめ、関係者の方々に厚く御礼を申し上げます。

公益財団法人はまぎん産業文化振興財団
清水照雄

●次号予告(2013年12月下旬刊行)
「箱根シオバク物語」(仮題)

2013はまぎん財団ふれあいコンサートのご案内

11月から来年2月までに開催するコンサート(無料)につきまして、次の通り、ご案内いたします。なお、平成26年度も、引き続き開催を予定しております。詳細は、別途ホームページ、インフォメーション等でお知らせいたします。

《予約制》ヴィアマールコンサート

- 会場 横浜銀行本店ビル1階「はまぎんホール ヴィアマール」
- 募集人員 各400名
申込多数の場合には、抽選となりますので、予めご了承ください。
- 開催日 下記のとおり
- 時間 14時00分~15時30分(1時間30分)
- 募集期限 11月11日開催：10月18日(金)
12月16日開催：11月15日(金)
2月17日開催：1月17日(金)
(全て当日消印有効)

●出演

開催日	内容	出演者	曲目
11/11 (月)	ピアノ四重奏 午後の調べ	末松茂敏 (ピアノ) 井上雅美 (ヴァイオリン) 高木敏行 (ヴィオラ) 唐沢安岐奈 (チェロ)	幻想即興曲 英雄がロネーズ(ショパン)、 ラ・カンパネラ(リスト)、 弦楽三重奏曲「セレナーデ」 op.8より抜粋 (ベートーヴェン)、 ピアノ四重奏曲 (ヴィオラ) 変奏長調作品47 (シューマン)
12/16 (月)	ロシア民族楽器 オーケストラに よるロシア音楽	北川 翔 (バラライカ、指揮)、 岸本 大 (歌、バス)、 北川記念ロシア民族 楽器オーケストラ	映画「ドクトル・ジバゴ」の 主題による幻想曲 (ジャール/北川 翔編曲)、 ロシアの冬景色 (ゴロフスカヤ)、 ロシア民謡、他
2014年 2/17 (月)	木管五重奏の 楽しみ	アンサンブル バルナス 阿部真美 (フルート)、 倉持香織 (ファゴット)、 篠原由桂 (オーボエ)、 内田隆太郎 (ホルン)、 小坂真紀 (クラリネット)	木管五重奏曲 (タファネル)、 動物の謝肉祭 (サンサーンス)、 歌劇「魔笛」序曲 (モーツァルト)、 日本の歌

※各コンサートとも、曲目を変更する場合がありますので、ご了承ください。

- 申込方法 各コンサート毎に往復はがき1枚に、郵便番号・住所・氏名・電話番号・コンサート開催日・コンサート名・1名または2名参加(最大2名)を明記のうえ、〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 「はまぎん財団コンサート係」までお申し込みください。

●注意 お申し込みはがきは、各コンサート毎にお願いします。なお、コンサート開催日・コンサート名の記載がないおはがきは無効とします。

- 協賛 横浜銀行 ●協力 オフィスKOM